

国際シンポジウム

ヨーロッパ絵画との出会い —近代ギリシャと日本の場合—

The Cases of Encounter with European Painting : Greece and Japan

独立戦争後ギリシャは、それまでのビザンティンの伝統とは別に、俄かにヨーロッパ絵画を受容します。当時ヨーロッパは古代ギリシャ再発見の時代。ギリシャ人はヨーロッパ人の目を通して自らの忘れていた過去を知ることになったのです。以後今に至るまで「ギリシャとは何か」はギリシャ文化史の重要な問いです。日本近代の「日本画」と「西洋画」の問題に類似性を見て、今回科学研究費の研究課題に沿って、近代ギリシャと日本はいかにヨーロッパと出会ったかをギリシャと日本の研究者を招き検証します。

2013年6月8日(土)

10:00 ~ 17:00

於 国立西洋美術館講堂

(企画展示館地下)

同時通訳付き、参加無料

プログラム

10:00 開会の辞

■木戸雅子 (共立女子大学教授)

10:30 ■ファニ・マリア・チガク Fani-Maria Tsigakou

(ベナキ美術館<近代絵画・版画部門>主任研究員)

11:15 ■鈴木杜幾子 (明治学院大学教授)

11:45 昼休み

12:45 ■大原まゆみ (明治学院大学教授)

13:15 ■アンドニオス・コティディス Antonios Kotidis

(アリストテリス・テサロニキ大学教授)

14:00 ■佐藤道信 (東京藝術大学教授)

14:40 休憩

14:50 ■児島薫 (実践女子大学教授)

15:30 会場整備

15:40 パネルディスカッション (司会 木戸雅子)

■馬淵明子 (日本女子大学教授)

17:00 閉会の辞

■「ビザンティニスト、フォティス・コントグルと近代ギリシャ絵画」

■「西欧絵画における古代ギリシャの受容と

近代ギリシャのナショナル・アイデンティティへの影響」

■「フランスにおけるギリシャ独立戦争関連の絵画と素描」

■「ルートヴィヒ一世時代のバイエルンとギリシャの美術交流」

■「ギリシャ近代絵画 1830-1930 :

ローカル・アイデンティティからモダニティへ」

■「脱亜入欧のハイブリッド —「日本画」「西洋画」、歴史・現在」

■「日本の近代画家たちがめざした東西の伝統の融合」

■「ギリシャと日本のヨーロッパ絵画受容におけるパラレルな様相」

◆主催：近代ギリシャ絵画研究会

◆共催：国立西洋美術館

◆協賛：吉野石膏美術振興財団 / 日本ギリシャ協会

◆後援：ギリシャ大使館